



探究の問い 絞り込みワークシート

といのタネ

テーマが決まった後に使います。大きすぎる問いを、調べられる大きさまで狭めるためのシートです。

印刷して手書きで埋めても、この本文をコピーして入力欄に貼り付けても使えます。

- ・ 使う場面: テーマは決まったが、何を調べればよいか決まっていないとき
- ・ 所要: ステップ1～5を通して1回。途中で止めて翌日に続けても構いません
- ・ 記入のきまり: 空欄のまま次に進まない。埋まらない欄は「まだ分からない」と書く

ステップ0. いまのテーマを書く

テーマ(決まっているもの):

...

...

いま思いついている問いを、思いついた順に3つ書きます。良し悪しは考えません。

1.

2.

3.

ステップ1. 5つの軸で狭める

上の1～3から、いちばん気になるものを1つ選び、下の5つの軸をできる範囲で埋めます。

すべて埋める必要はありません。**2つ以上埋まれば次に進めます。**

軸	質問	記入欄
対象	誰の／何のことを調べるか	
場所	どこの話に限るか(自分の市・県・日本・特定の学校 など)	
時間	いつの話に限るか(今年・過去5年・〇年から〇年 など)	
条件	どんな条件のときに限るか(雨の日・部活のある日・〇人以上の学校 など)	
比較	何と何を比べるか	

ステップ2. 調べられる形にする

狭めた問いを1文で書き直します。「～だろうか」で終わる形にします。

...

問い(第1稿):

...

次の3つに答えられない場合、その問いはまだ大きいか、調べる手段が決まっています。

- この問いに答えるには、どんな情報が必要ですか。

→

- その情報は、どこにありますか(統計・文献・アンケート・観察・インタビュー のどれか)。

→

- 自分が使える時間の中で、その情報は集まりますか(はい／いいえ)。

→

「いいえ」なら、ステップ1に戻って軸をもう1つ足します。

ステップ3. AIに壁打ちさせる(記事のプロンプト1〜3を使う場所)

AIに聞いた結果を、そのまま問いにしないでください。**採用したものと、採用しなかったものの両方を書きます。**

AIが出した候補	採用する／しない	その理由(自分の言葉で)

AIの出力は参考の一つです。最終的な問いは、次のステップで自分の言葉に書き直します。

ステップ4. 自分の言葉で確定する

ステップ2の第1稿と、ステップ3で採用した点を合わせて書き直します。

...

問い(確定):

...

確定した問いを、次の3点で自己点検します。3つとも「はい」になるまで書き直します。

- [] 調べる対象・場所・時間のうち、少なくとも2つが書かれている
- [] 「はい／いいえ」だけで終わらず、調べた結果で答えが変わりうる
- [] 情報の入手先を1つ以上、具体名で言える

ステップ5. 記録を残す

探究のレポートに添える記録です。使ったAIについては、次の3点を控えておきます。

- 使ったAIの名前:
- 入力した指示(プロンプト):
- 使った日付:

> 文部科学省のガイドライン Ver.2.0(令和6年12月26日)p.20 には、生成AIを用いた際に「生成AIツールの名称、入力したプロンプトや出力、日付等を明記させることが考えられる」と書かれています。提出のきまりは学校によって異なるため、担当の先生の指示を確認してください。

出典: 文部科学省「初等中等教育段階における生成AIの利活用に関するガイドライン Ver.2.0」(令和6年12月26日)

https://www.mext.go.jp/content/20241226-mxt_shuukyo02-000030823_001.pdf